

ただいま発掘中！

# 巣鴨町家跡の発掘調査

第2号 2013年4月8日

調査も中盤にさしかかり、いよいよ江戸時代が見えてきました。幕末から明治にかけての調査では建物跡のほか、**胞衣皿**と呼ばれる土器皿を2枚合わせた容器が発見されています。胞衣とは胎盤のことで、子供のすこやかな成長を願って、生まれたときに家の出入り口や縁の下などに埋めると言われています。

江戸時代後期（約200年前）の生活面では、**道**と推定される硬質面が旧中山道に直交する形で敷地奥へ延びていることがわかりました。また、硬質面の確認されないエリアでは、**植栽痕**（庭木を移植する時に残される円形の掘り込み）が密集して発見され、様々な樹木が配置されていたと考えられます。

出土した遺物は、**有田**や**瀬戸・美濃**、**堺**などの窯で焼かれた飲食器や調理具等の陶磁器類がみられます。この他には、各種の**植木鉢**や**寛永通宝**（貨幣）が多く出土しています。

当時のこの場所に建物はなく、植栽痕や植木鉢の発見から、**植木屋**の庭園の一角にあたる可能性があります。なお、通りのすぐ脇には**柱跡**が位置することから、**門**か**塀**が建てられていたと思われます。こうした調査成果から、江戸時代後期の菊見ブームを牽引した植木屋の活動の一端が垣間見えるのです。

今後は、段階的に地面を掘り下げていき、さらに古い江戸時代中期及び前期以前の痕跡を調査する予定です。

※この発掘調査は、タカセ洋菓子株式会社のご協力を得て行っております。

発掘調査地：豊島区巣鴨 3-20-16〔住居表示〕

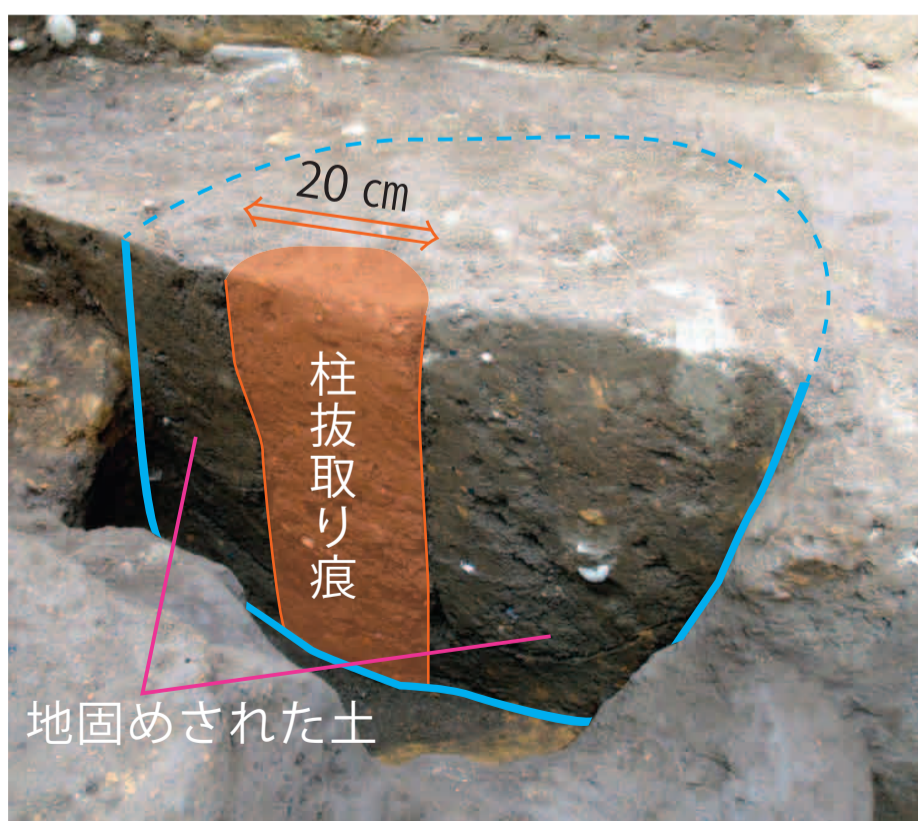
特定非営利活動法人  
としま遺跡調査会

地蔵通り  
(旧中山道)



(後半調査)

江戸時代後期(約200年前)の生活面の調査  
写真上部に道と推定される硬質面が旧中山道  
に直交する形で敷地奥(左側)へ延びています。  
写真の下半部は植栽痕<sup>しょくさいこん</sup>が密集して発見され、  
様々な樹木が配置されていたと考えられます。



比較的大型の柱穴(断面観察写真)  
通りのすぐ脇に位置することから、門か  
塀の一部の可能性があります。

↓ 出土した植木鉢



胞衣皿(幕末~明治)  
胞衣皿と呼ばれる土器皿  
を2枚合わせた容器が納  
められていました。